

備前市事務事業評価シート

(平成22年度事業)

事業の概要
事業開始年度: 昭和46年度~
大項目: 06 健全で自立したまちづくり
中項目: 01 簡素で効率的な行政運営
小項目: 14 その他事務管理(総務庶務)
事務事業名: 02 例規事務

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的
対象: 職員、インターネット環境のある市民、行政関係者等
目的: 適正な行政事務の執行
事業の意図する成果: 条例、規則を改正する際には他の法令等と整合を図るとともに、法令改正により条例、規則の改正も必要な場合に機を失しないようにする。

Plan

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績
細事業名: 例規事務
事業の説明: 条例・規則等を制定、改廃する際の支援や審査、例規検索システムの管理、データベースの更新等を行う
優先度:

Do

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等
事業費: 5,744 (平成20年度実績) / 4,342 (平成21年度実績) / 4,463 (平成22年度実績)
決算額: 国県支出金、受益者負担、財源、その他
結果指標: 処理例規の件数、結果指標量、対前年比、活動コスト、単位当たりコスト

事業の成果
成果指標名: 例規1件の整備に要する時間
年度: 平成20年度 (5.5), 平成21年度 (5.5), 平成22年度 (5.5), 平成23年度目標値 (4.5)
実績値 (B): 6.22, 5.47, 4.33
達成率 (B/A): 88.42%, 100.55%, 127.02%

事務事業の評価
5段階評価(A~E)のランク基準
A: 高い B: やや高い C: 普通 D: やや低い E: 低い
市との関与の妥当性の評価: B
コストの効率性の評価: C
目的達成度の市民参画度の有効性の評価: C

Check

事業の目的やその留意点、目標の有効性を評価

進行年度(H23年度)の改革改善内容
状況: 拡充, 現状継続, 見直し, 縮小, 整理統合, 休止, 廃止・完了
説明: 効率的な事務処理を行うために、新しい例規システムの来年度導入を検討をしている。

総合評価
5段階評価(A~E)のランク基準
A: 高い B: やや高い C: 普通 D: やや低い E: 低い
評価区分: C
A: 妥当性 B: 効率性 C: 有効性

Action

平成24年度の方向性・取組目標
方向性: 拡充, 現状継続, 見直し, 縮小, 整理統合, 休止, 廃止・完了
取組目標: 担当係がまず新しい例規システムを十分理解した上で、新例規システムの研修会を開催するなどして、円滑な運用ができるよう職員を指導していく。